

平成28年度 全国学力・学習状況調査結果の概要

東員町教育委員会

【調査の目的】

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【調査の概要】

○実施校数 ○実施児童生徒数

小学校（6校）・6年生：217人

中学校（2校）・3年生：215人

○学力に関する調査 ○学習や生活の状況・学校の取組に関する調査

小学校：国語A・国語B・算数A・算数B 児童アンケート

中学校：国語A・国語B・数学A・数学B 生徒アンケート

※Aは、主として「知識」に関する問題、Bは、主として「活用」に関する問題

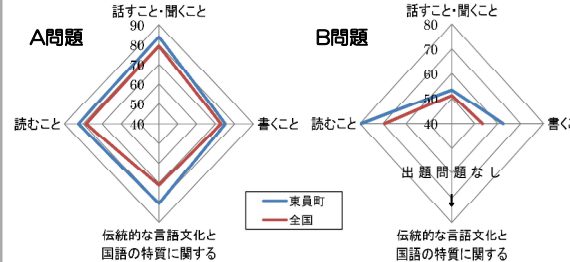
【調査結果の取扱い】

本調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのため、序列化や過度な競争を目的とした取扱いにつながらないよう各教科別に各領域の正答率をリーダーチャートで記載しています。

調査結果については、本調査の目的を達成するため、自らの教育及び教育施策の改善、各児童生徒の全般的な学習状況の改善等につなげることが重要と考えます。

国語

○小学校



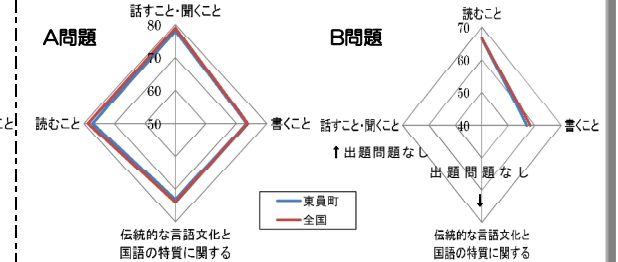
【全体的な傾向と課題について】

A問題については、昨年度と比較すると、各領域の正答率のバランスが取れており、大きなひし形に近づいてきた。これは各校で取り組まれている読解力や、書く力の育成に力点を置いた授業づくり研究の成果といえる。B問題でも書く力においては、課題が残るが、出題された3つの領域において全国平均を上まわった。

★指導のポイント★

- ・自分の考えを論理的に書く、授業の最後にまとめと振り返りを書く時間を設定し指導すること

○中学校



【全体的な傾向と課題について】

A問題については、4領域のバランスもよく基礎基本的な知識・技能が身につけていると言える。B問題では、「書くこと」の領域が課題であり、一昨年度、昨年度同様、伝えたい事実や事柄が相手に効果的に伝わるように書いたり、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書いたりする力が低いことが分かる。

★指導のポイント★

- ・書いた文章を読み返し、目的に応じた表現に直すこと
- ・接続語の使用や段落構成を工夫して書くこと

学力調査の検証にかかる東員町の教育努力目標

【確かな学力】

○小学校

- ・学んだこと（基礎基本）を生かしながら、仲間とともに新たな課題を乗り越える力を育みます。
- ・対話力、活用力を生かしながら、課題を克服できる力を育みます。

○中学校

- ・目標に向かって、計画的・継続的に学習できる力を育みます。

【豊かな心】

○小学校

- ・仲間とともに学び合うことに喜び感じられる心を育みます。
- ・困っている子に気づき、相手の立場に立ち、考えられる心を育みます。

○中学校

- ・自分の将来や生き方について考えられる力を育みます。
- ・社会の発展に貢献しようとする心や力を育みます。

【健やかな体】

○小学校

- ・規則正しい生活習慣と、進んで運動したり外遊びをしたりする習慣を身につけます。

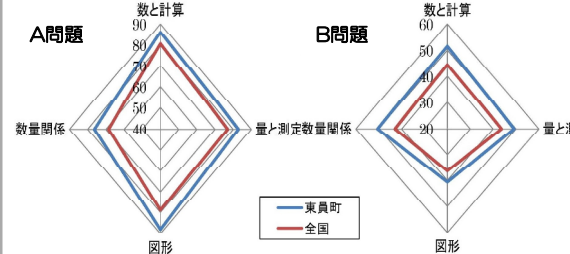
○中学校

- ・規則正しい生活習慣を確立し、体力をつけようとする力を育みます。

（東員町16年一貫教育プランより）

算数・数学

○小学校



【全体的な傾向と課題について】

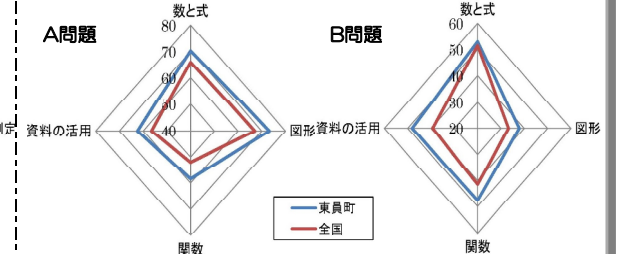
A問題、B問題ともに、全ての領域において全国の平均正答率を上まわった。しかし、A問題では、数量関係、B問題では図形の正答率が低く、課題といえる。

チャート図には表れていないが、問題形式においても、選択式、短答式、記述式において、全国の平均正答率を上回った。しかし、記述式の正答率は、34%と低く、国語同様、書く力に課題が残った。

★指導のポイント★

- ・問題の解き方や考え方が分かるように、言葉や数、式を使って書く機会を授業に多く設定し指導すること

○中学校



【全体的な傾向と課題について】

A問題、B問題ともに、全ての領域において全国の平均正答率を上まわった。しかし、両問題ともに、4領域のバランスがとれていないことが、四角形の形からも分かる。A問題では、資料の活用、関数、B問題では、小学校同様、図形の正答率が低く課題が残った。

★指導のポイント★

- ・グラフ等の資料から、多面的に情報を正確に読み取ること
- ・観察、操作や実験等を通して、図形に対する直感的な見方や考え方を深め、論理的に考察し表現すること

リーダーチャートの見方：各教科で学習指導要領に示されている領域の正答率をグラフ化したものです。それぞれの領域の正答率が高いほど、グラフの四角形はバランス良く大きくなる傾向にあります。